

序

当研究所は、昭和57年度も恒例の事業として教育論文集の刊行を企画し、論説の部、実践記録の部に分けて原稿募集をしましたところ、各学校の先生方から14編の原稿をお寄せいただきました。

本年は、14編のうち2編が論説、12編が実践記録となっています。

論説の内容は、一つは、人間が生涯にわたって学習していく社会についての理念を9項目からとらえ、学習社会の方向を示してくれました。

また、他の一つは、余暇時間の活用等の問題をコミュニテイスchoolの観点に立って考察しています。

実践記録の内容は、学校における教育活動の全体像をしっかりとらえ、その上で児童生徒自らが学んでいくところに視点をあてた研究実践であり、新しい研究の方向が伺えます。

いずれの論文も、最近の教育思潮を的確に把握しながら、学校経営的視点や生涯学習の視点からの研究の様子がうかがわれます。また、いくつかの学校の先生方が共同で研究したものをはじめ、学校の継続的・組織的な研究実践もあり、研究の深まりがみられます。これらのそれぞれ特徴をもった教育論文は、読者自らの教育観を深める重大な契機となったり、複雑な状況分析への明確な視点を提供してくれるにちがいありません。したがって、ここに示された貴重な教育論文を、今後とも、各学校における日々の教育実践に十分生かされ、本市教育の発展に寄与されることを期待いたします。

終わりに、論文をお寄せくださった学校、先生方をはじめ、関係者の方々にお礼申し上げるとともに、みなさまのますますの御活躍を祈念して序といたします。

昭和58年3月

足利市立教育研究所長

山 崎 政 三